

令和4年度岩手県流域下水道事業会計決算概要

岩手県県土整備部

- 本県の流域下水道事業は、令和2年4月1日から地方公営企業法の財務規定等を適用し、公営企業会計へ移行。
- 経常収益は、長期前受金戻入の減などにより、前年度比2.8%減の91億3千万円余となり、経常費用は、減価償却費の減などにより前年度比2.3%減の88億8千8百万円余となった。
- この結果、経常利益は前年度比17.0%減、純利益は前年度比16.6%減の2億4千1百万円余となり、当初目標を達成した。

1 令和4年度損益

(単位：千円) 税抜

科目	年度	令和4年度 (A)	令和3年度 (B)	比 較	
				増減額 (A-B)	増減率 (A-B) / B
経常収益		9,130,242	9,390,002	△ 259,760	△ 2.8%
経常費用		8,888,931	9,099,207	△ 210,276	△ 2.3%
経常利益		241,311	290,795	△ 49,484	△ 17.0%
特別利益		0	0	0	—
特別損失		0	1,390	△ 1,390	皆減
純利益		241,311	289,405	△ 48,094	△ 16.6%

2 経常収益の状況

維持管理費用に関する覚書に基づく関連市町からの負担金収入の減(△17,099千円)、減価償却費の減少に伴う長期前受金戻入の減(△169,795千円)などにより、前年度比259,760千円(2.8%)減の9,130,242千円となった。

3 経常費用の状況

光熱水費(179,080千円)や委託料(276,715千円)は増となったが、資産の減価償却が進んだことによる帳簿価額の減に伴う、減価償却費の減(△499,825千円)などにより、前年度比210,276千円(2.3%)減の8,888,931千円となった。

4 経常利益、純利益の状況

以上の結果、今年度は特別損益が無かったことから、経常利益は前年度比49,484千円(17.0%)減となり、当期純利益は前年度比48,094千円(16.6%)減の241,311千円となった。

なお、経常利益の当初目標に対する実績は次のとおりとなった。

区 分	当初目標	実 績	増 減	備 考
経常収支比率	100.3%	102.7%	2.4ポイント	当初目標を達成

5 汚水処理状況

令和3年度と比較し、流入汚水量は0.5%の減となり、7,108万m³を処理した。負担金収入は、0.4%の減少となり、4,189,308千円となったが、令和4年度から関連市町の負担方法を総括原価方式へ変更しており、実績処理水量による負担金収入の差額が生じない、安定的な収入が得られるようになっている。

区分	年度	令和4年度 (A)	令和3年度 (B)	比 較		処 理 区 域
				増減量 (A-B)	増減率 (A-B) / B	
総処理水量 (千m ³ /年)		71,079	71,443	△364	△0.5%	
北上川上流流域 (千m ³ /年)		67,523	67,948	△425	△0.6%	盛岡市、滝沢市、栗石町、矢巾町、花巻市、北上市、奥州市及び金ケ崎町
磐井川流域 (千m ³ /年)		3,556	3,495	61	1.7%	一関市及び平泉町
市町負担金収入 (千円)		4,189,308	4,206,407	△17,099	△0.4%	